



生瀬

校訓：正義 博愛 勤勉

令和6年2月13日 第12号

大子町立生瀬中学校

文責：校長 山本 一典

大子町内大野2963番地1 TEL.76-0006

HP <http://www.daigo.ed.jp/namase-cyu/>

いばらきっ子郷土検定県大会で優秀賞受賞!!

2月3日(土) 2年生がザ・ヒロサワ・シティで行われた「いばらきっ子郷土検定県大会」に大子町を代表して出場しました。各市町村代表校が集う予選Cグループを激戦の末勝ち抜き、準決勝まで進出しました。惜しくも決勝進出は逃しましたが、みんなで力を合わせ、大会場で堂々と解答する姿はとても立派でした。また、会場も唸るほどの難問に対しても、これまでの練習で得た知識を総合的に判断し、解答を導く姿に感心させられました。5人のパネラーと応援が一体となって臨んだ県大会は、自分らしさを表現し、一人ひとりが輝くステージとなりました。2年生の挑戦は、見事優秀賞を勝ち取りました。おめでとうございます。



生瀬中でなければできない教育の推進



縦割り班清掃では、校門脇の側溝にあふれた落ち葉を取り除いたり、体育館の清掃を行ったりしました。2年生のリーダーが中心となって指示や呼びかけを行い、全学年が協力して取り組みました。2年生が学校のリーダーとしての自覚と責任をもって、意欲的に取り組んでいる2月です。

生瀬富士俳句会 1月優秀賞の紹介

【校長賞】 「十五でも まだまだ踏みたい 霜柱」

3年 小橋 灯里さん

講評：踏んだ時のあのざくざく感と音が楽しい霜柱。いくつになっても止められない、ストレートなその気持ちに共感させられる句となりました。

【国語主任賞】 「登校中 冷やされた息が 照らされる」

2年 大藤 遥菜さん

講評：寒い冬の登校道。一生懸命自転車を押し、学校へと進む道中でふと足を止める。息を整えようと吐いた息は白くなり、それが朝の日差しでキラキラとほのかに光る、冬の一場面を巧みに表す句です。

「鮫鯨鍋 家族で食べたい 冬の夜」

1年 鈴木 莉生さん

講評：寒い冬の日、家族みんなで鍋を囲む姿が目には浮かびます。冬の寒さとアツアツの鮫鯨鍋の対比が面白い句です。